

## 『横浜国立大学 教育人間科学部付属 鎌倉中学校』

## 総合的な学習の時間 職場体験学習を支援



電鍵を使用したモールス信号による通信を体験する学生達



フル装備の防火服を試着する学生

神奈川県地方協力本部藤沢募集案内所（所長 島津准陸尉）は、10月1日（木）、2日（金）の間、鎌倉中学校の「総合的な学習の時間」支援を実施した。

1日目は第4航空群（厚木基地）、2日目は第4施設群（座間駐屯地）を見学した。厚木基地では、基地の概要説明、パイロットスーツの試着、基地食堂での体験喫食、格納庫見学、防火服の酸素ボンベを含めたフル装備での試着、担架を利用した患者の搬送要領研修、消防車放水及び、消防車内の見学を実施した。座間駐屯地では、コンパスを利用した目標発見要領体験、基本教練、若手陸曹・陸士による野外電話機の設置、操作・取扱要領研修、電鍵（モールス信号）による通信要領）体験を実施した。

職場体験に参加した中学生の中には、初めて自衛隊の駐屯地や基地を訪れた者も多く、自衛隊の仕事や装備について実際に自分の目で見たり、自分の手で触れることで新たな知識と貴重な体験を得られたようである。参加した中学生は、自衛隊に対するイメージは「救助」が強かったが、今回の職場体験によって自衛隊の任務が国防・国際貢献・災害派遣ということを理解し、「遠い存在と感じていたものがとても近い存在と思うようになった」と感想を述べていた。

藤沢募集案内所は、「今回の「総合的な学習の時間」で、将来、自衛官を目指すという学生もおり大変有意義な支援が実施できた」としている。

## 平成27年度自衛隊観艦式に感動！

観艦式青少年体験ツアー—補給艦「ましゅう」に乗艦して  
大学生 北村 悠

私は観艦式青少年体験ツアーにて、全長220メートルを超える巨大な補給艦「ましゅう」に乗艦した。両舷の通路はまっすぐで遥か向こうまで続いていて、物資を格納する25メートル位ある冷蔵庫や部屋がいくつも連なっていた。まるで大きな学校を歩いているような感覚であった。当日は快晴であったが予想以上に揺れは大きかった。私はふらふらになりながら艦内見学をしたが、海上自衛官の方は皆、ふらつき無くまっすぐ歩いていた。

艦内見学を終えてエレベーターで飛行甲板へと昇ってゆく。ガスタービンエンジンの「キーン」という音とともに、照りつける日差しはものすごく眩しく感じられた。やっと眩しさに目がなれた時、左舷には6隻の艦艇が隊列を組んでいるのが見えた。それはまさに山が連なっているかのような壮大な光景であり、海上自衛隊のスケールの大きさを肌で感じた。

一番印象に残った訓練展示は、対潜爆弾を使用した訓練展示だった。3機の哨戒機が等間隔に爆弾を次々に落とすという訓練展示。少し経ってから大きな水柱とともに、かなり離れた場所にいるにもかかわらず船体を「パン」と叩くような音が聞こえた。驚きからやがて、私が入隊し潜水艦に配属され、このような攻撃を受けたらと思うと正直、恐怖を感じた。しかし、それ以上に私は自衛官の方々に頼もしく思い、尊敬をしている。そして私も尊敬する海上自衛官に少しでも近づきたいと思うのである。艦艇勤務は休日も街に繰り出せるわけでもなく、艦内で過ごさなくてはならなかったり危険な任務もあるだろう。しかし、それ以上のやりがい、スケールの大きさを感じる。今回の体験ツアーで様々な業務を見ることができた。機械室でエンジンを動かす人、整備する人、リーダーをひたすら見ている人、ソナーでエコーをずっと聞いている人、隊員の健康や救護に関わる仕事をしている人、隊員の楽しみである食事を作る人など他にもたくさん職に分かれて仕事をしている。そして与えられた任務を丸とって果たすという海上勤務にとっても大きな魅力を感じる。

艦艇勤務は辛いこと、我慢することもたくさんあると思う。しかし今回の体験ツアーで、それ以上の魅力があると感じた。国の運命を任されているという使命感。全員で艦を動かすというスケールの大きさ。辛いことも楽しいことも皆で運命を共にする一体感。一般企業では体験できないことばかりである。私は生まれたからにはこの海上自衛官になり、艦艇に乗って仕事をしたい。

艦艇一般公開で制服試着する北村君  
右後方に補給艦「ましゅう」